

アプリで写真を投稿！災害時の情報収集に活用！

11月29日（日曜日）午前9時30分から、和田2丁目の立正佼成会で総合震災訓練を実施しました。今回は、区が11月に配信を始めた防災地図アプリ「すぎナビ」を活用して、災害時の被害状況を写真で投稿する訓練を行いました。これまでは、無線や携帯電話を利用し言葉で伝えていた被害状況が写真で確認でき、しかも地図上に表示されるため、災害時の情報収集に活用できることが確認できました。

平成24年4月に、東京都防災会議が首都直下地震の被害予想を発表しました。その内容は、最大で約9,700名の死者、14万人以上の負傷者、建物被害は30万棟にも及ぶものです。当然、交通機関の混乱や道路ががれきで塞がれるなどの状況になることも予想されています。また、地震のほかにも局地的大雨や台風などが比較的高い頻度で発生しています。

従来、災害時の被害状況の収集は、住民からの通報や区職員による現場パトロールによる報告によるもので、現場に向かえる職員の数からも限界があります。特に首都直下地震など大規模災害時には、迅速な災害対応のためにもより多くの情報が必要となります。



そこで、区が開発したのが、防災地図アプリ「すぎナビ」です。このアプリは、災害時に限定されますが、火災の発生や橋の崩落、倒木、道路冠水など被害状況をスマートフォンのカメラと連動させて区の災害対策本部に送信することができ、危険個所を地図上で確認することができます。また、地図には近辺の避難所などを確認することが可能です。

11月29日、立正佼成会法輪閣駐車場には、防災関係機関や地域住民など約1300人が参加して、年に一度の総合震災訓練を実施しました。今回、「すぎナビ」による被害状況の投稿を訓練の一つとし、アプリの性能の実証実験を行いました。町会の住民などが、地域の避難場所になっている小学校などから、訓練会場に移動する途中で20枚ほどの写真を撮影し、すぎナビアプリを使って投稿しました。投稿された情報は、確実に災害対策本部に送られ、会場内に設置したモニターを使って確認することができました。区は、この検証によって、アプリの有効性が確認できたことから、さらに積極的にPRを行いアプリの普及に努めていきます。

